

平成30年度 第2回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 平成30年12月18日(火) 午前9時30分から

場 所 安曇野市役所3階 会議室301

○出席者

市 長	宮澤 宗弘		
教育長	橋渡 勝也	教育長職務代理者	唐木 博夫
教育委員	須澤 真広	教育委員	横内 理恵子
教育委員	二村 美智子		

○補助のため出席する者

教育部長	西村 康正		
学校教育課長	平林 洋一	生涯学習課長	臼井 隆昭
文化課長	那須野 雅好	図書館交流課長	丸山 高人
学校教育課学校給食センター長		丸山 仁一	
学校教育課教育指導室長		會田 義昭	
学校教育課教育指導室教育指導員		清澤 栄三	
学校教育課学校教育係長		櫻井 義之	

○事務局出席者

学校教育課長補佐兼教育総務係長	等々力 洋子
学校教育課教育総務係	岩原 遼子

○傍聴者

報道機関	2名	傍聴人	1名
------	----	-----	----

◎開 会

教育部長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから平成30年度第2回総合教育会議を開会いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開で行いますので、ご了承をお願いいたします。

◎市長挨拶

教育部長 それでは、初めに、宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

市長 おはようございます。

それぞれお忙しいところを第2回総合教育会議ということでもありますけれども、ご出席をいただきまして心から御礼を申し上げます。

師走、今年もあとわずかになりました。教育委員の皆さん方には、お忙しいところでございますけれども、これからの安曇野の教育行政について忌憚のないご意見を賜りたいというふうに思っております。

平素から教育行政推進について、いろいろな面でご支援、ご協力賜っておりまして改めて感謝申し上げる次第でございます。

また、ご承知のとおりでございますけれども、今年は猛暑、そして今年をあらわす文字が「災」ということで、全国各地に集中豪雨が発生し自然災害の多い年、そしてこの地域においてはご案内のとおり糸魚川静岡構造線、いつ地震が起こるかわからない、このような中で子どもたちの安全・安心をどう守っていくかということも大きな課題の一つだと捉えております。

それから、猛暑によって議会でも多くの議員が取り上げておりましたけれども、11月市議会臨時議会におきまして小中学校への冷房設備の整備に係る予算を提出し、計画的に整備をしてみたいということでお認めをいただいたところでございますけれども、第一に10億円近くかかる、大変多額なお金がかかりますし、将来の電気料等維持管理費もかさんでくる、こういう状況の中において財政が非常に厳しいものがございます。教育行政、すぐに成果があらわれるものではございませんけれども、教育の中にも費用対効果、しっかり教育効果が上がるような体制づくりが求められてまいっておりますので、教育現場においてもコスト意

識を持った改革をできる限りしていただきたいなという思いがございます。

いずれにいたしましても、未来を担う子どもたち、社会の宝であるというように位置づけさせていただいております。良好な学習環境を整える必要性から、先ほど申し上げました予算状況が厳しい中ではございますけれども、全小中学校へ冷房設備導入の計画を決断させていただいたところでございます。平成31年度には市内の小学校10校に、また平成32年度には中学校全校7校に冷房設備を完了する予定となっております、今各学校に設計業者が回らせていただいている状況でございます。子どもたちによりよい学びの環境を整える、できるだけ努力はしてまいります、限られた予算の中にどう生かしていくかということが大きな課題でございます。

今回の議会におきましては、安曇野市の教育大綱（案）について議題にさせていただきます。地方行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の基本方針について総合教育会議の場で協議をしまして、首長が定めることとされております。従いまして、第2次安曇野市総合計画の前期基本計画の基本目標におきましては、「学び合い 人と文化を育むまち」を掲げておりまして、人と人とが幅広く活発に交流し、豊かな人間性と文化を育むまちというように定めております。こういったことも踏まえながら大綱案を作成しておりますけれども、それぞれ委員の皆様方から十分ご審議をいただくようお願いを申し上げます。

また、これまでの総合教育会議におきまして既に合意がなされ、現在取り組みを進めております電子黒板の導入、副学籍制度の成果と課題について、それぞれ報告をさせていただくことになっております。小学校へも電子黒板の導入が言われておりますけれども、この導入によって成果があらわれてきているのか、具体的にどのような動向になっているのか、しっかり精査をしていただきたいと思います。

本年度は教育長、教育委員の皆様方から市内の全小学校を訪問していただいたというように報告を受けております。それぞれの立場で、小学校、中学校に寄せる願い、期待をまとめていただいたところだという報告を受けておりますが、学校に対する教育委員会の皆様方の思い、そういったものは全職員が私どもを含めて共有をさせていただきながら、子どもたちの学びの環境の改善に力を尽くしていかなければいけないというように考えております。

いずれにいたしましても、教育委員会の皆様方にはそれぞれのお立場で率直なご意見をいただくことを重ねてお願い申し上げ、安曇野市の教育はいかにあるべきか、以前からお願いを申し上げてまいりました。それぞれの子どもの個性、能力を十分に生かしていただい

て、そして生き生きとこの地で活動できる子ども、あるいは世界に、日本に羽ばたく子どもの育成に努めてほしい、何か日本一を目指して取り組んでほしいという願いをさせていただきます。こんな成果が上がりますように心から願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

教育部長 ありがとうございました。

◎教育長挨拶

教育部長 続きまして、教育委員会を代表して、橋渡教育長からご挨拶をお願いいたします。

教育長 教育委員会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

宮澤市長におかれましては、日々教育行政に多大なご尽力を賜り、また本日総合教育会議を開催していただきましたことに心から感謝と御礼を申し上げます。

先ほどご挨拶にもありましたとおり、災害とまで言われたこの夏の猛暑を受けまして、小中学校の全普通教室へ冷房設備の整備を財政面も含めご決断をいただきました。より安全で安心な教育環境の整備を進めることができますことに改めて感謝を申し上げます。

本日の総合教育会議におきましては、安曇野市が目指す教育の方向を定めた新たな教育大綱の策定を協議題としていただきました。私ども安曇野市教育委員会では、本年度よりスタートしました文化振興、生涯学習、スポーツ推進、図書館等の計画に沿って取り組んでいるところではありますが、教育大綱はそれらの扇の要、山で言えば目指す頂上を明確にすることであると思います。個別の諸計画が今後10年間の計画であることから、中間評価を行う5年目あたりに学校教育の計画も含めて再編成した（仮称）安曇野市教育振興基本計画の策定を目指したいと考えております。教育大綱がそれにつながっていくものと思いますので、どうぞよろしくご審議のほどお願い申し上げます。

次に、報告事項といたしましてこれまでの総合教育会議で取り上げていただきましたテーマの中から、中学校における電子黒板の導入の効果、副学籍制度の成果と課題を報告させていただきます。

また、本年度の学校訪問につきまして教育委員の皆様からお寄せいただきました感想、意見等を集約した学校訪問を終えてを報告させていただきます。

これまで長野県教育委員会が実施をしてきました主幹指導主事による学校訪問の方法が変

更になったことを受けまして、安曇野市教育委員会では独自の学校訪問を実施してまいりました。具体的には、午後の半日日程で教室訪問、授業参観、施設設備等の安全点検、学校長、教職員との懇談などを行ってまいりました。宮澤市長にも運動会等の学校行事や「ようこそ市長さん」などを通して学校の様子を見ていただいておりますので、それぞれの皆様が直接見て感じたことについて共有し、ここでの意見交換を踏まえて各校へさらなる安曇野教育の充実発展のために願いと期待を発信してまいりたいと考えております。

では、本日も有意義な会議となりますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎議事 安曇野市教育大綱（案）について

教育部長 それでは、4の議事に入らせていただきます。

議事につきましては、この会議の主催者であります宮澤市長より進行をお願いいたします。

なお、その後の職員の説明等につきましては着座にて説明をさせていただきますので、お願いいたします。

では、お願いいたします。

市長 それでは、しばらくの間議事進行を務めさせていただきます。ご協力のほどをお願い申し上げます。

まず、安曇野市教育大綱（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

教育部長 それでは、資料1をご覧ください。

資料1について、学校教育課、平林課長より説明をさせていただきます。

学校教育課長 「安曇野市教育大綱（案）について」資料1により説明。

市長 ただいま事務局から説明がありました。皆さんそれぞれから質問、ご意見等お伺いするということになっておりますが、今課長がどんどん読んだ原稿は委員の皆さんのところへはいつているわけですか。一生懸命読んでくれたはいいけれども、具体的に大綱を読めばわかるかもしれないけれども、それぞれこれだけ言われて読んだらすぐにここで頭の中で咀嚼して意見を言えというのも困難ではないかと思う。委員の皆さんは頭のいい皆さんがそろっているのわかるかもしれないけれども、ちょっと不親切ではないかと思えます。

いずれにしても、基本方針に沿って1から7までそれぞれ説明をいただきましたけれども、質問、ご意見等あったら、お願いいたします。

唐木委員 お願いいたします。

意見的なことになるわけですが、今前段で説明していただいた安曇野市の教育が現行の教育大綱として認めていただけてきたわけですが、これが基本的なものがつくられたのが平成24年だったというふうに記憶しています。それに基づいての教育の運営の中で、安曇野市、市長のご理解等をいただきながら一定の成果を上げてきたという認識を持っております。教育委員会の中でも教育大綱についてどんなものかということを考える機会がありましたが、一定の成果を上げてきた、その前提の上で、では新しい教育大綱はというときにやはりより市民にわかりやすい簡潔なものであること、そして今後の5年間、10年間の安曇野市教育の方向性が見えるものについてまとめていくのがいいではないかということで何回も検討されてきました。

その結果、今回私非常にシンプルでいいなと思っているのは、基本理念のところ「子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り育むまちを築きます。」という形で、第2次安曇野市総合計画の基本目標と一致させて市長部局、それから教育委員会とがますます連携を深め、そして実効ある教育行政が進められていく大綱になっていることを大変大きな進化かなというふうに捉えております。

今の説明を受けて、一番感じるころはそのようなことを感じております。

以上です。

市長 他にございますか。

須澤委員 教育委員会の何回かの会合を通じて我々の意見を求められましたので、それぞれの委員が発言、提出したものが上手に7項目にまとめられているという点で非常によろしいのではないかというのが1点でございます。

それから、教育理念の視点でまとめられたところでございますが、（目標）とございます。これは、最初から理念と目標、何か違うものが一つになっているような気がして、目標でもあり理念でもあるという感じですが、理念でいいんじゃないかと私は思っております。

3点目は、現行の教育要覧、その中に教育指針として3行にわたってまとめられていて、現行はその下に説明文が続いているんです。だから、これまでは教育大綱は3行だけだったということでございます。それと比して、非常にすっきりすると同時に具体化したというのが私の全体での感想でございます。

市長 理念と（目標）、これについて説明してください。

学校教育課長 基本理念と、理念を定めるものというふうに文部科学省からは示されているわけですが、理念とは目標に通じる理念ということで、あえて括弧書きで目標という表

記をさせていただいているということでございます。いろいろな表現の仕方はあるかと思
いますけれども、目標の目指す姿という形で、目標という言葉をつけ加えてございます。

以上です。

市長 教育委員会事務局の考え方は理念イコール目標ということになるわけか。

学校教育課長 そうですね。理念であると同時に目指すべき姿、目標という意味合いでこうい
った表記をさせていただいたところでは。

市長 そうすると目標は方針にも通じるので、基本方針ともイコールになっていくのか。

学校教育課長 理念は大きなところでまとめさせていただいて、その理念に基づきいわゆる行
動のための基本方針という形で1から7まで掲げさせていただいたということでございます。

市長 今までこういう書き方になっているのか。市は、理念（目標）になっているのか。

学校教育課長 市と言いますか、他の自治体においても基本理念としているところ、あるいは
基本目標としているところさまざまでございますけれども、基本的な考え方、これが目指す
姿の目標というようなことでこういった表記にしているということでもあります。

市長 今、教育委員会からそういう説明がございましたが、委員の皆さん方はどういうふうに
解釈したらよろしいですか。

理念と目標は、イコールということか。後ろの職員の皆さん方も専門的な見地から、こ
の捉え方はどうなるんですか。須澤委員のほうから問題提起があったんですが、あまり深く
考えないほうがいい。あるいは理念は理念、基本方針は方針で、目標を削除するかどうか
ということだね。あえて括弧書きしてある理由。

学校教育課長 広く市民の皆様にもわかりやすい表現をとということも考えまして、目標という
言葉を使っておりますけれども、市長おっしゃられたように理念と目標というのはほぼ同じ
意味合いということであれば、括弧書きは削除しても意味は変わらないのかという感じはし
ております。

市長 どうですか。すっきりさせるためには、紛らわしくないほうがいいということも言える
ね。

唐木委員 お願いします。

今回の教育大綱が今後のことを考えていくと教育振興計画に結びついていくんじゃないか
というふうに思っているわけですが、教育振興計画になっていきますとそこには今度
は明確な目標が出てくると思うんです。この段階で目標を明確に掲げていけば、では達成し
たかどうかという評価になっていこうかと思っておりますので今お話がありましたけれども、理念

の段階にとどめておいて目標化するのは今後さらに細かなところを詰めながら検討していくという方向でもいいのかなという、今思ったわけであります。目標にするには、少し今度は内容的にこんな子どもたちを育てていきたい、こんな生涯学習の社会をつかっていきたい、文化をつかっていきたいという市の大きなくりの中で話をしているので理念の段階でとどめておくのもいいかなというふうに思いました。

以上です。

市長 私も「文化を創り育むまち」、文化というのが非常に捉え方が難しいと思うんだよね。全て日常生活も文化であると思う、それは食べるという食生活も文化、それから芸術文化という一般的な学術的なものも文化という、文化とは何かと言った場合に非常に幅広いのではないか。気候風土もそれは地域の文化だと思し、文化の捉え方というのも文化を創るというのも何をどういうようにつくるか。それが基本方針の中に七つの掲げられているということになるんだけど、文化を創るというのは新たな文化を創るということになるということの捉え方ですか。日常生活そのものも私は文化だと思っているんです。食文化であり、地域の風土であり、生活そのものが文化ではないかなという思いがあるんだけど、あまり理屈を言っていると前に進まないけれども、これは（目標）は削除してもらってちょっとすっきりさせてもらって、どういうものを目標にしていくのか。基本方針に沿った形の中で目標を定めながら具体化をしていく、それを形にあらわすことだと思いますけれども。

須澤委員 今、市長がおまとめになったような方向でよろしいのではないかと思います。

もう1点、先ほど教育長がご説明になられた中に5年目に教育振興計画を策定というご計画がございました。多分、事務局はそれが頭にありますので、そういうのを目標というふうにお考えになっていたと思うんです。ですから、そういうことをもしも入れたいならば、この理念の前段に前文として、教育振興計画策定に向けて以下の基本方針を大綱としますというように前文を入れるなりすれば、目標というのは明確になるかなと思います。すっきりさせるには市長おっしゃった方針でよろしいかなと思います。

市長 教育長、何かご意見、コメントがありましたら、お願いします。

教育長 黄緑色で囲まれた中のものは安曇野市が策定いたしました第2次安曇野市総合計画、皆様にお配りした概要版を見ていただくとわかると思うんですけども、この中の将来都市像の5番目にあります「学び合い 人と文化を育むまち」、その下に三つございまして「子どもが健やかに育つまち」、「生涯を通じて学び合うまち」、「文化を創り育むまち」、この三つをここへ持ってきたわけです。従いまして、第2次安曇野市総合計画では基本方針と

しておりますけれども、教育大綱においては基本理念ということで据えていただくと、第2次安曇野市総合計画との整合もとれ、やがてまた次の段階になったときの明確な位置づけにもなると思いますので、（目標）を取って基本理念とする方向がよいと考えております。

市長 （目標）を削除してもらおうということで、少しすっきりさせてもらおうということでお願いいたします。

他にご意見ございますか。

二村委員 市民目線で見ますと、社会や地域に発信するにはとてもわかりやすいように集約されているのではないかなと思います。子どもが大人をリスペクト、尊敬したり大人が子どもを尊敬したりの社会になればなと思いますけれども、大人がしっかり挨拶をしたり、自分の命は大切なんだ、自分の存在が人のためになっている気持ちを持てる、察する、課長の話を伺うと察する内容ではないかとは思いますが。大まかな内容ではありますけれども、1の基本方針の“からだを動かし、頭で考え、心に感ずる”というところは「たくましい安曇野の子ども」に集約されているのではないかと思います。

平成最後の総合教育会議にこの大きな教育大綱が策定されるであること、とても大切に、また期待をしております。

以上、感想です。

市長 何かコメントはありますか。

学校教育課長 いえ、特にございません。

市長 意見ということでお聞きしておけばよろしいですか。

二村委員 はい。

市長 何か議論すること、他にごございますか。

横内委員 では、私も意見を申し上げます。

子どもを持つ家庭が一番身近に感じている教育というものは、やはり家庭での教育と子どもが通う学校教育そのものであって今こうして安曇野市教育大綱を見ますと、1から7までこんなにも多岐にわたって安曇野市の教育が網羅しているということを、なかなか子育てしている私どもの年代には知らないことも多くて、こういった家庭教育、学校教育以外のことも安曇野市の教育が網羅しているということを市民にももっと広く知っていただきたい。今回、理念が大変コンパクトになりまして、基本方針にその具体が示されてわかりやすくなっていると思いました。これを策定するというので、何かを成したという気になってしまうことがないようにどう実現していくのかということをお大綱を尊重して取り組んでいきたいと

思います。

以上です。

市長 方針がきめ細やかにできているということで、これをどう実行していくかというようなことが求められるというご意見だと思います。

他にございますか。よろしいですか。

唐木委員 お願いします。

この形で、教育大綱ということで市長からお示しいただくということになっているわけですが、今後のことにかかわってこれは要望というか、願いということになります。基本方針に書かれていることが実際の施策なりにもっていかなければ、計画が計画で終わってしまうのですが、この基本方針の中にあらわれている言葉の中にも連携とか協働とかいろいろな仕組みで力を合わせるんだということが込められているわけですが、具体的に私たちが進めていかなくてはいけないのではないかと。これは教育委員会も、それから市長部局との連携も含めてということになろうかというふうに思います。

例えば、学校のほうで今特別支援教育のことが大変大きな課題になるわけですが、子どもをどう支援してもやはり発達段階から見ていけば保育園とか、それから幼児教育も家庭教育も全部のところその年齢に合わせた発達資産みたいなものが養成されていかなければ、学校の段階で特別支援の教育の対象という形で配慮していかななくてはならないということになるわけです。でも、いろいろなところがそれぞれの段階に応じて理解し合い、連携し合って、例えば教育であれば子どもたちの育ちというものを大事にした、そんなところを共通のものとして、安曇野市はこういう方針でやっているんだということを大事にしながらやっていくことが大事ではないか。ですから、書いたからには私たち教育委員会としてこの総合教育会議で決定したからにはその決定したことに対する、当たり前のことですけれども、責任はお互いに持ちながら自覚を持ちながら、やっていかなくてはならないなということで大変ある意味では強い緊張感というか、そういうものを持ちました。

すっきりしてわかりやすいもの、横内委員おっしゃいましたが、市民のところに広く周知しながら市全体として取り組めたらなと思います。ありがとうございました。

市長 唐木委員のほうからご指摘いただいた重要な視点だというように捉えさせていただいております。市も協働のまちづくり、支え合い、助け合いのまちづくりを促進するということが自治基本条例もつくったのですが、なかなか市全体の方針、こういう方針が決められてもどのように浸透させてそれを実行に移すかということが難しい課題でもありますけれども、

それに取り組んでいかざるを得ない状況だと思っております。いずれにしても、PTAの皆さんなり区長会の皆さんなり、行政は職員の皆さん方の協力、それから特に教職員の皆さんの協力と理解がなければこの基本方針に沿った政策の立案というのは困難でありますので、どのようにみんなが参加してもらって大綱を理解してもらおうかということだと思っております。

他にございますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

市長 それでは、いろいろなお意見がありました。こういったものを今後参考にさせていただきながら教育行政を進めていくこととなりますが、大綱(案)についてご承認をいただきたいと思っております。それぞれ承認をいただける皆さんの挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

市長 ありがとうございます。

全員の委員の皆さん方の賛成によりまして、安曇野市教育大綱(案)、ご承認をいただきました。

先ほどご指摘をいただきましたように大綱に書かれている基本理念、基本方針、これは市長部局、それから教育委員会部局、さらには各種団体、特に家庭の保護者の皆さん、そういった多くの皆さん方のご協力によって安曇野市らしい、全国に誇れる教育が推進されていきますことを願っているものでございます。市民の皆さんが目指す、そして本市も目指しております合併して14年目になりますが、新しい安曇野市づくりの基礎は着実に前進しているというふうに捉えておりますけれども、より住んでみたい、そしてより住み続けたい、よその皆さんがうらやましがらうような、そんな教育振興を図っていかなければいけない、それぞれのお立場で一層のご支援、ご協力、ご尽力のほどをお願い申し上げる次第でございます。

◎報告事項

(1) これまでの総合教育会議の議論を踏まえた取組みについて

(ア) 電子黒板導入の効果について

市長 それでは、続きまして、報告事項に入ります。

これまでの総合教育会議の議論を踏まえた取組みにつきまして、(ア)電子黒板導入の効果について、事務局から説明をお願いします。

教育部長 では、4ページをお願いいたします。4ページ、資料2につきまして、学校教育課

長の平林よりご説明をいたします。

学校教育課長 「電子黒板導入の効果について」資料2により説明。

市長 ただいま事務局からの説明が終わりました。

ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

これは、私のほうからちょっとお伺いするんですけども、教室における可動式電子黒板の移動に時間がかかるというのだけれども、移動しなければいけない授業はどういう授業で移動するのか、また時間がどの程度かかっているのですか。

学校教育課長 担当者が今日出席しておりますので、説明をお願いします。

学校教育課学校教育係長 移動につきましてですけれども、廊下のほうに置いてある場合、そこから教室に引き込むまでの間、若干戸をくぐったりとそういった移動時間、また休み時間が5分と大変短いものですからそのところで時間が足りないというふうに聞いております。多くの学校につきましては、普通教室は常設となっておりますのでそういった時間のロスはないと聞いております。

市長 でも、移動に時間がかかるということで授業に差し障るくらいの時間がかかっているのか、具体的に何分くらいかかっているわけですか。それと、機器に接続する際に時間がかかるということだけれども。

学校教育課学校教育係長 機器の接続、パソコンを職員室から持ち込みまして、それを設定するのに3分くらいかかると聞いておりますけれども、休み時間が短い部分ということもありまして移動時間等を含てというふうに聞いております。

市長 だから、その時間を3分かかるとは授業に大きく影響する時間なのか、やりくりはつくのかどうか。これは、移動しなくて全てまた入れるということになれば財政もかかるんですけども、こういうふうに具体的に書かれているということになれば若干の時間的なロスが学校教育に大きな影響を与えるということになるのか。だから、そうすると可動式電子黒板は廃止をして固定式に全部しろという要望が出てきた場合に、それに全て応えられるのか。固定がされていなくて、どうしても必要な教室数というか部屋数というのは何カ所くらいあるんですか。

学校教育課学校教育係長 現時点では、普通教室と言われているふだん子どもたちがクラスで使っている教室については常設という形で入ってはいるんですけども、一部学校の黒板等の状況によりまして可動のものを置いてはあるんですけども、教室の中で若干狭いというお話の中で廊下等に出しているという現実がございます。それを中に引き込むことができると

ということになれば、また準備の時間等も短縮できるということも考えられます。

あと、特別教室のほうに電子黒板が一部常設されてないところがございます。そういったところは各校5台分ずつ配備はさせていただいているんですけども、それではまだ足りないというような状況がございます。というのは、正確にあと何台必要かというのは今手元に数字がございません。申しわけありません。

市長 いずれにしても、あるものを工夫して活用していただいて大きく学校授業に差し障りがあるということになれば再考することも大切かもしれませんが、あるものを有効にどういうふうに工夫して活用してもらうかということを考えてもらいたいと思います。

唐木委員 関連して、お願いします。

教育長のほうに、おわかりになったら教えていただきたいのですが、スクール・サポート・スタッフの人材が学校へ入っています。そういうスクール・サポート・スタッフの人材の方々は、今後拡大することが予想されているわけですが、例えば今のようなことが起こったときにそういうスクール・サポート・スタッフに授業準備として教室へ電子黒板を入れてくださいというような活用というのは可能なんですか。

教育長 もちろん可能だと思います。

唐木委員 そうすると、では先生方が直接準備をしなくてもスクール・サポート・スタッフ入っている方々が器械のセッティングをして、先生方はすぐ授業に入っていくという形態も今後としては可能になってくる。全て、授業準備を全部先生方がやるんじゃないという時代が進んでいくのではないかというふうには思っているんですけども、そんなことを思いました。

市長 こういうふうに記載されちゃうと、授業にどの程度教育的に影響してくるのか、それも分析をしないと先生たちが都合が悪い、もう移動が面倒だという話になっちゃって今3分という話だけでも、本当に3分かかるのか、5分かかるのかわからない。子どもたちの休憩も5分だって大事だと、トイレへ行ってくればもう5分経っちゃうと思うんだ。本当に5分の休憩時間がいいのか。私たちの子どもころは10分あったような気がするんだけど、そうすると短縮するについては、昼休みの時間を若干短縮するか朝授業の始業を5分早めるとか遅くするか、それは校長先生の裁量で運営はできるわけだよね。だから、授業に差し障りのない工夫を現場でもらうということだと思ってくれるけども、あれも面倒、これも面倒、どんどん改善しろと言われても全てそれに応えるというわけにいかないの、それこそさっきの目標にあったように学校現場も、からだを動かし、頭で考えてもらうということだ

と思うけれども、そういうことで教職員の皆さんと相談してやってください。

何か他にございますか。

唐木委員 関連して、続けてでよろしいですか。お願いいたします。

電子黒板の導入に当たって、私大変印象的に思っていることが一つあったのは当初今セイコーエプソン株式会社の機器が入っているわけですが、セイコーエプソン株式会社は製品化ということに対してはかなり躊躇されている部分があって安曇野市が100台規模で導入することによって製品を向上させるということにもなっていたんだというお話をちょっと聞いたことがあるんです。それに関連して、例えばVAIO株式会社も今電子黒板の分野に参入するという報道があります。将来、小学校への導入ということも視野に考えていかなくてはいけないということは、そういう地元企業との連携とか共同研究みたいなものというのは可能性がないのかなという気もするんです。

こういう機器というのは、必ずしも1社に固定すると過去のいろいろな例はあまりいい方向には進んでいかない。競合とか、それから切磋琢磨があったほうがいいと思うんですが、市長さん、その辺について、もし何かありましたら。

市長 基本的には、地場産業の振興、雇用の確保、自主財源確保ということを掲げておりますので、地元企業の育成という面ではそれは考えていかなければいけない課題だと思っております。発注する一般の土木建設事業も地元優先、それから下水道、上水道関係も地元優先ということで取り組んでおります。

今回も電子黒板のメーカーは何社かあるのですが、やはり地元優先ということでセイコーエプソン株式会社に今お願いをしたという経過が恐らくあったと思います。ただ公平性とか透明性とか競争性、これをきちんと担保した上で説明責任を果たせるような体制が必要でありますので、その辺を考慮しながら地元企業の育成、そして民間企業との連携、これは深めていく必要があるということで取り組んでいるところでございます。

それぞれVAIO株式会社にしてもセイコーエプソン株式会社にしても、あるいは株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズにしても、今電子黒板のみならずロボット産業、IT産業を盛んに取り入れられておりますので日進月歩の技術進歩があるので、1回入れてこれが将来的にずっと継続して同じ機種でやっていいのかどうかということは、またそれぞれの中で考えていかなければいけない課題だというふうに思っております。

メーカーの場合、例えばパソコンなんかはいい管理をしてもらうのに株式会社電算にほとんどこの自治体も頼んで、本当に株式会社電算がいいのかどうか。競争性の問題とかサー

ビスの面からした場合に地元にあったほうが都合がいいではないかということがあって、ある自治体では新潟のメーカーを入れたんだけど、値段は安かったけれども、メンテナンスの面で劣っていたということで、また戻したというところもあるので地元産業育成の面から公平性を保ちながら対応していきたいというふうに考えております。

他にございますか。

教育長 今回電子黒板の導入の効果ということで、特に生徒については大変好意的に受けとめられたという評価を受けているわけですが、さらに教職員にとって電子黒板がどういう指導効果を上げているか、そんな点についても明らかにしていくことが必要ではないか。電子黒板は、一つの道具でありますのでそこにどういうソフトを活用しながら子どもたちに情報を提示していくかというのは、まさに教師の教材研究等に求められている教師の専門職の大事な部分であると思うんです。従来、そういうものをつくったとしても、拡大コピーをしてそれを準備して黒板に張るとかそういう苦勞をしていた部分がこの機器を使うことによって時間的に短縮が図られるとか、あるいは同じ教科の教員同士が自分のつくったもの、あるいは隣の先生がつくったものを共有しながらともに同じものを使いながら教育効果を高めていくとか、そんなことが教師にとっても非常に有用な機器であるということがはっきりしてくればさらに小学校への導入についても新たな示唆というか、そんなものが得られるのではないかと思います、今後の検証のあり方について今回は限られた情報でまとめたと思うんですけれども、そんなことも希望させていただきます。

市長 今の要望について、今後の取組みということですが、よろしいですか。

それともう一つ、これは教職員から回答いただいたのが153人、中学校の教職員の皆さんは何名くらいいるんですか。

学校教育課学校教育係長 市内の中学校の教員、講師合わせまして185名おります。

市長 ほとんど、全部の先生方をお願いしたことの回答でよろしいわけですね。

学校教育課学校教育係長 はい。

市長 ありがとうございます。

他にございますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

市長 それでは、貴重なご意見をいただきました。今後の現場の状況等も踏まえて、あるいは費用対効果も考慮していただきながらICT教育を進める上で参考にしていきたいと考えておりますのでお願いいたします。

(イ) 副学籍の成果と課題について

市長 続きまして、副学籍の成果と課題について、事務局から報告をお願いします。

教育部長 それでは、6ページ、お願いいたします。

資料3につきましては、学校教育課教育指導室の清澤教育指導員から説明をいたします。

学校教育課教育指導室教育指導員 「副学籍の成果と課題について」資料3により説明。

市長 ただいま説明が終わりました。

それぞれご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

これは、県下各地で副学籍の制度は導入されているということですか。

学校教育課教育指導室教育指導員 中信地区が一番遅れているという状況だと思います。ただ、最近整備をされてきて松本市は来年度、塩尻市は安曇野市と同じように本年度から始まっております。

市長 実際の交流活動での安全確保など、人的な補強をする必要性を感じている項が14ページの上段のところにあるのですが、働き方改革の中で先生方はこれによって今まで以上に重荷を感じるというか、仕事量が増えちゃっているということが言えるわけですか。

学校教育課教育指導室教育指導員 先生方の意識として、子どもたちのためになるとか子どもたちが成長していくためには、先生方の意識としてそういったことを乗り越えてやっていきたいという思いは、先生方はお持ちですので今現在そういったところののっかっている状態で新たに副学籍をやることで仕事は増えるわけでありますので、今現在意義を感じて先生方の意義を感じているところが上がっているのが実情かなと思います。

市長 これは一人ひとりの子どもを大切にするとか、一人ひとりの子どもに合った教育を推進していかなければいけないという副学籍制度、理解はできるんですが、ある面では義務教育ということの視点からすれば県なり国なりがもう少し職員配置を手厚くしていかなければ、各自治体でいいことだからとどんどん取り入れた場合にそれに対応できない問題が生じてくると思うんです。是非市町村教育委員会、県教育委員会と一緒に文科省なり積極的な要望活動というか、運動を進めていかない限り、安曇野市においても市単独で63人ですか、加配の先生方をお願いしているという実態があるのでいいことだけれども、推し進めれば推し進めるほど財政負担が増えていくという、一方ではちょっと難しい課題がどうしても生じてきてしまいます。その辺をどう解決をしていくかということが求められるし、工夫も必要だというように感じます。

学校教育課長 15ページにも少し取り上げさせていただきましたけれども、市長おっしゃった学校負担という、やはり特別支援学校、県立でございますけれども、県においてきちんと副学籍校につなぐ役割を担っていただけるように県の職員配置をしていただければと思っております。まして、本年度も数回、機会を捉えまして人材配置の願いはしてきております。ただし、県からは難しいというようなお答えも頂戴しておりますけれども、今後粘り強くそういったことの要望等を含めて広く機会を捉えながら訴えてまいりたいと思っております。

以上です。

市長 これは、県の市長会に取り上げられたり、副市長会議とかあるいは総務部長担当会議でやっているんだけど、もう少し教育委員会としてこれを見る限りでは教育部長であるとか課長、もちろん皆さん大変なことだと思いますけれども、教育委員会として教育長を先頭に市教育委員会なら市教育委員会がもうちょっとまとまって運動を強化してほしいように思いますので、要望させていただきます。

学校教育課教育指導室教育指導員 わかりました。

市長 委員の皆さん、何かございますか。

次へ進んでよろしいですか。

(発言する者なし)

市長 それでは、今後副学籍制度、ある面では充実させていかなければいけない一方、課題も出てきております。これは、どう整合させていくかということが求められていると思いますけれども、いずれにしても子どもたちに公平な形で誰もが学べる、そしてお互いに思い合う、そんな教育を進めさせていただければと考えております。

(2) 安曇野市立17小中学校への願いと期待

～教育委員会による平成30年度の学校訪問を終えて～

市長 それでは、次に進ませていただきます。

続きまして、(2)の安曇野市立17小中学校への願いと期待～教育委員会の平成30年度の学校訪問を終えて～ということで事務局から説明をお願いします。

教育部長 それでは、16ページをお願いいたします。

16ページ、資料4につきましては、学校教育課教育指導室、會田室長より説明をいたします。

学校教育課教育指導室長 「安曇野市立17小中学校への願いと期待～教育委員会の平成30年度の学校訪問を終えて～」資料4により説明。

市長 ありがとうございました。

事務局からの説明が終わりました。

学校訪問していただいたということで、それぞれの委員の皆様方から補足の意見等ございましたら、お願いいたします。

よろしいですか。

(発言する者なし)

市長 私のほうからちょっと感じていることですが、今の若者というか、学校教育の中でもそうだと思いますけれども、17ページの児童生徒が主役の授業づくりの中で児童生徒同士が互いの考え方を交わし合う場面を取り入れていただくということがあるんだけど、今の若者の皆さんは情報機器の時代か、パソコンだけに頼っているというのか、対話がないんだよね。それで変な話だけれども、市の職員そのものも対話がない。何を考えているかわからない。議論をすることが相手を傷つけるというような思いがあるのか、お互いに遠慮し合っで私どもの若いときと違って意見をぶつけ合うとか、そういう論議を深めるということが大分不足しているように感じます。パソコンのふたを開いていれば仕事をやっているように見えるんだよね。やっているとは思うんだけど、それでお互いにメール交換するとか相手の立場を慮っているのがあるのか、パワハラとかセクハラだとか相手がどう感じるかということによって何か遠慮っぽいものがあって、個人情報保護だとかプライバシーの問題があまり表に出過ぎて職員の中で本音の論議がどうもされていないように感じるんだよね。学校教育の中で、生徒たちが自ら発想してたくましい子どもに育っていくにはもう少し議論があっ、お互いに意見をぶつけ合うような機会があってもいいような気がするんだけど。

それと、もう一つは社会科の時間なんかで、さっきもちょっと話に出た優秀な企業がたくさん安曇野市にあるんだけど、どんな企業がどんな内容の仕事をやっているかほとんど知らない。これは、職員の皆さんも知らない。新たに、安曇野市を受験するという新人の皆さんに企業の名前だけでもいいから何社か言ってみてくれと言ってもあまり出てこないのが実情なんだよね。もう少し安曇野市を知ってもらおうような、そうして社会参加をしてもらうような教育ができないかという思いは私にはあります。

ただ、一方ではすぐに歩道が整備をされていない、危険だ、移動させるにはマイクロバスなり何か交通手段をすぐに考えなければ危険が起きた場合に責任を負わされる、それをどう

回避するかということのほうに力点が置かれているような気がして、私どもいろいろ昔の人間であるものですから今の体制に対して、ちょっとついていけない価値観の相違もあると思うけれども、時代が大きく変化しちゃっている。昔のことを言っても、時代が変わっているよと言えばそんな考え方は古い、古い気になるかならないか知らないけれども、組織として運営していく上で非常に困難なところがありますね。

学校教育の中でも、挨拶なんていうのは基本的な問題でやっていると思うんだけど、朝一通り回ると声が出ない、しっかり声を出す人もいるけれども、頭だけ下げて行っちゃうとかあるいはこそこそと端によけちゃうとか、これは学校教育の中にそういうものが入っているのかという思いがして、社会人として出てきたときに学校教育の中で培ったものが生きてくるかどうかというのはちょっと難しいように感じています。

唐木委員 お願いします。

今後期待することというところで、不易なことに軸足を置きながらということにかかわっていくわけですが、学校訪問して総じて子どもたちが大変落ち着いた学びをしていたり学校だったりして、年齢に応じて本当にいい勉強をしているなということを思ったのが実感であります。本当に、落ち着いた学校生活をしております。

その中で、働き方改革というようなことが出ているわけですが、労働条件なんかも示されているんですけども、これがちょっと先ほどの人と人とのつながりというようなところで心配しているところもありまして、学校の一番の機能は人が集まっているということだと思うんです。人と人が直接会話をしたり、議論したりとか、ああいうところに学校としての意味があるのではないかと思うんですけども、それで心配することというのは子どもとか保護者とかかわりとか教材との準備なんかもそうなんです、教師が本質として一番根幹としてやらなくてはいけないことがあるわけです。人とかかわりがどうであるかということを考えさせたりとか、まさに人間が何百年も大事にしてきたものを維持していこうということ、それが今度の働き方改革という名のもとで、ここまででいいんだとかここまででしようがないんだよねというような形でもし制限があつたり切られていったりしてしまうと、とても不幸なことではないかという気がしております。

ですから、今ほどある意味では教職員の資質とか、それから対応力とかの向上が問われている時代はないんじゃないかというような思いを持っております。かつてならエンドレスでやったことも、それはそういう働き方ではないんだという言い方をしてそうすると教育委員会もそうなんですけれども、では教育委員会はそれに対してどう学校現場を支援していくの

か、またガイドするのか、またはコーチングしていくのかということで働き方改革は教師の資質向上が問われているのに、もう少し教育委員会自身の資質も問われているんじゃないか。それが今市長さんがおっしゃった、かつてはこうで、ごく自然に育ってきたものとか大事にしてきたものが心配がある、そのところに危惧されるものがあるんじゃないかという気がして今いい育ちに向かっている安曇野の子どもたちをさらにどうしていくかということは、本当に真剣に常に考えていかなければいけないことだな。それに、公式の場ではありますが、声高に言われていることにばあーんと流されていってしまうというのは慎重にならなくてはいけないと思っております。

市長 ありがとうございます。

他にご意見、何か感想等ございますか。

二村委員 中学校の文化祭に私行ったのですけれども、そのときに中学1年生の男の子が1年の代表として発言したんです。小学校のときは、一人ひとりが勉強をして先生と相対でやっている、そして答えを出すということが主だったんですけども、中学に来たら机を四つ向かい合わせにして話し合いをして、そこで学び合いの学習をしているということで、そこで教え合いができていたりとかしてとてもいいというような、文化祭でみんなの前で発表してとてもいい取り組みだなとすごく感じました。

学校訪問って私したことがなかったんですけれども、学校によってカラーがあってとても温かい教室をつくり出しているクラスであったりとか、今女性の先生が多いので受け入れるほうの体制もかなり考えていらっしゃるのではないかなと思いました。子どものためと言われちゃうと、先生って基本的に全てを受け入れるというような感覚があるんですけれども、それが子どもと向き合う時間の確保につながっているか、ちょっと矛盾したような感じが受け取られる先生方が苦しんでいらっしゃるのかなとは思いますが。

県内の南信地方で働いている人たちが消防団に入っているんですけれども、昼間もし何かあったときにはそこに行けない。なので、定年を迎えた60歳以上の方に消防団ヘルパーさんみたいな形をとって昼間地域を守り、その人たちが学校に行って小学校や中学校で防災訓練をしているという話を聞いたので、何か取り入れられるところがあるのではないかという思いはしました。

以上です。

須澤委員 市長さんのお話をお聞きして、市長さんが朝登庁されるときは職員に向かっておはようという声をかけておられる姿をお見かけして、非常に大事なことだなと感じたのを今思

い出しました。

次に、私のお話したいのは5、懇談会を通してです。たった2行で終わってしまっていますが、16ページです。この懇談会が、今回学校訪問の際に非常に私には印象的でした。それはなぜかと申しますと、学校長、教頭のお二方、この方と教職員との関係というのがこの懇談会のときに私には日ごろの関係というのが感じられました。つまり、教職員が自由闊達に意見を述べられているなど感じられるところとある学校では発言される先生がご指定になっていて発言しているという感じの学校とありまして、自由に発言している学校は日ごろの雰囲気もこうなんだろうなど、こんなふうに感じましてやはりここにあります次の1、どんどんと改革をしていくという校長先生中心にする姿勢が非常に大事だということを感じました。特に、4年目の学校長の先生は非常に改革に意欲的でした。例えば、校舎と校舎をつなぐ渡り廊下があったり、中庭がある。中庭は見えるだけという状況だったんですね。その中庭を歩いて向こうの渡り廊下へ行けるというのを今年つくったというんです。校長先生は、非常に自慢してお話をされていました。これは、なかなか改革にたったこれだけのことで、生徒にとっては役に立つというふうに私は思いまして、そういう前向きの姿勢を是非大事にしてもらいたいと思いました。

市長 ありがとうございます。

それぞれ二村委員、須澤委員さんからご意見を賜りました。どの学校も先生方が一生懸命頑張ってくれていると思います。教育委員会の先生方、忙しいとは思いますが、また機会を見ながら是非学校訪問をしてもらって現場との連携を深めていただきたいなと思っております。特に、家庭で子どもを育てることが今欠けていて変な話ですけれども、学校に任せておく、あるいは認定こども園に任せておくということで、親の責任というのが自分の子どもでありながらみんな行政に教育委員会に、あるいは福祉課に任せておけば責任は行政にあるみたいな感覚を持っている皆さんもおいでなものですから、この辺の家庭教育の中でどのように子どもを育てるかという視点からも、親御さんたちはやはり自分の子どもでありますので、ある面では責任をしっかりと持ってもらうということも大切かなというように感じています。

他に何かございますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

市長 時間もだいぶ経過をしてまいりました。本日の会議では安曇野市教育大綱について、あるいはそれぞれ提案させていただいてご承認をいただいた事項、また共通の認識化が図られ

た事項等については、今後の安曇野教育の中でしっかり取り組んで反映させていかなければいけないという思いがございます。

それでは、いろいろとご審議を賜りましたけれども、出された意見等も参考にさせていただいて、また事務局で積極的に取り組めるところは取り組んでいただきたいと思ひますし、新年度予算編成期にもなつてきております。財政面も含めて改革すべきところはしっかり改革をしていただひて、効率的な予算執行にまたご協力を賜りたいと思ひます。

◎教育に関する懇談

市長 以上で、本日の用意させていただきました議事は終了でございますが、その他教育施策全般を通してご提言等ございましたら、自由にご発言をお願いいたします。

何かお気づきの点、あるいは今後の要望等ございましたら、ご意見を賜りたいと思ひます。

唐木委員 お願いいたします。

本市の先のほうを見ていったときに、少子化ということで学校の教育環境が大分差異が出てくる学校が出てくる。大規模なところ、割と小規模なところ、いろいろと少子化に対応した教育環境のあり方について、時間をかけて議論していかなくてはいけない時期を迎えてきているのかということを感じております。

そういうことに取り組んでいる市もあるわけですがけれども、ただこのことは決して私は課題とか問題を解決していくという観点よりは、安曇野市の教育として夢を語れる場でもあるんじゃないか。例えば、地域の特色を生かした安曇野流の少人数学習のあり方とか義務教育学校をつくっていくとか、または学校自体の仕組みをあまりやられるところはないけれども、メイン校とサポート校みたいな形で年齢を分けてとか、よく少子化の学校というと困ったねと、すぐ統廃合とかそういう話になっていくけれども、そうではなくて子どもたちの成長が進んでいくんだという夢を語れるような、そんな議論を丁寧いろいろな角度からしてみても、そして現実にくる問題はあるわけですのでそれを子どもの育ちにつなげていかれるような、それは1年とか2年では難しい部分があるのでそれこそ3年、4年かけていくという時期を迎えつつあるのではないか。数年後には、単級の学校が二つになってしまうという事実もあるわけであります。効率化とか、それから即効性とかそういうことも大事でありますけれども、まさに安曇野のある意味では日本一の教育をつくる一つの題材ではあるかな、そんなことを思っております。

時間のないところ発言させていただきました。ありがとうございました。

市長 問題提起であります。これからの少子化の中でどういった安曇野教育がいいかという投げかけだと思います。

この間、新聞に出ていたのは南信のほうだったか、各学校の先生たちの交流を盛んにして地域の教育のあり方についてもえらい勉強になったみたいな話を書いてあったように若干の記憶にあるんですが、今学校間の先生方の交流というのはある程度あるわけですか。

教育長 校長会、教頭会はもちろんですけれども、教務主任であるとか研究主任であるとか、あるいは同じ学年の先生たちが集まって課題や悩みを話し合うとか回数はそう多くはないんですけれども、あることはあります。かつてほどは、活発ではないかもしれませんね。

市長 それで生徒同士や学生というか、小学校は児童という、中学校は生徒、その交流はほとんど昔はあったんだけど、今はないんだよね。いろいろ工夫しということで、さっきの話も出た音楽会の工夫だとかいろいろ行事のあり方、運動会だとかそういったものも環境問題も含めて学校でいろいろ工夫をされているということだけれども、学校同士の児童生徒の交流というのもほとんどないんだね。ただ、唯一あるのは2分の1成人式で半分ずつ分けて、午前、午後に分けられて一緒になる。でもそこでは何か一緒にやる、協働の学習なり、「飛べないホテル」を見て感想文を書いてもらう程度で終わっているということで、学校同士の交流というのは音楽会だとかすばらしいものを行っていると思うし、指導する先生によって子どもたちが能力を伸ばしているという面もあるし、教育って幅広くて深くて難しく、私は勉強が嫌いなほうだったのでよくわからないけれども、体験をして体で覚えたことは比較的大人になっても印象に残って覚えているけれども、頭で覚えたことは忘れちゃうんだよね。どういった教育がいいのか、もう少し子ども同士の交流、先生同士の交流があってもいいような気がしているんですが、それと高校との連携ということも今少しは始めていただいているようですけれども、やはり幼児教育、学校へ上がる前から認定こども園や幼稚園との連携、あるいは小中学校の連携、これは義務教育と福祉の中でやっていると思いますけれども、高校との連携というのがもっと進んでもいいような気がする。ここは、高校再編の話も近からず遠からず出てくる話題だと思いますし、どういったことが子どもたちにとって教育効果が上がっていくのかなということこれは現場の先生も保護者の皆さんも交えて教育委員会として検討していただく課題だと思います。

それでは、よろしいですか。

(発言する者なし)

市長 本日の総合教育会議、協議事項につきましてはいろいろと意見交換させていただきたいことがあるかもしれませんが、本日はこの程度で打ち切らせていただいて、また教育委員会の先生方お忙しいかもしれませんが、それぞれのお立場であるいはまた合同で安曇野教育の将来のあり方について今からしっかり議論を進めてほしいと思いますし、先ほど唐木委員のほうから話が出ましたけれども、少子化の中で特に子どもの数が少なくなっているのは横内委員がおいでで明科の明北小学校、これからどういうようにしていくのか。あるいは、明科北認定こども園のあり方も含めて議論をしていかなければいけない課題だと思います。今日、明日に結論が出る課題ではございませんが、ここ数年のうちにはどういった方向を出せばいいのか、大きな課題もありますのでそれらも含めて今後検討いただければと思いますのでお願いをいたします。

それぞれ貴重なご意見を賜りました。ありがとうございます。

以上で、あまりうまくいきませんでした。進行役をおろさせていただき、事務局にバトンタッチをいたしたいと思っております。ありがとうございました。

◎閉 会

教育部長 ありがとうございました。

それでは、本日の会議事項が全て終了いたしました。

これで、平成30年度第2回総合教育会議を閉会といたします。皆様、大変お疲れさまでした。